

令和5年度 自己評価報告書

優郷の学び舎
世田谷区立弦巻中学校
校長 加藤 ユカ

1. 概要

今年度の学校関係者評価アンケートの回収率は、生徒では平均78%と例年90%を超えているにも関わらず低い回収率にとどまってしまった。生徒への実施は、各クラス個別に実施したこともあり、なかなか全員回答したかどうか把握することがむずかしい。また、当日欠席した生徒や遅刻した生徒や不登校の生徒が多かったこともあり、低い値になってしまったと考えられる。来年度は、必ず期限までにすべての生徒が回答できるように配慮したい。

また、保護者による回答も、昨年度、はじめてwebによる回答で保護者からの回収率が51%と以前より大幅に低くなってしまった。その原因も考えて、実施したところ、今年度の回収率は74.4%と20%増加した。もちろん、90%以上の回答率になることが望ましいが、毎年工夫改善しながら100%の回答率に近づくように努力していきたい。

今年度も昨年度同様、保護者から肯定的な回答が多い設問が「学校行事」「情報がよく提供されている」（約90%）の項目だった。また、生徒の肯定的な回答が多い設問では「学校行事は楽しい」「学校が楽しい」（約90%）の項目であった。さらに、「課題について自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている」（主体的な対話的で深い学びの授業）との回答をした生徒が88%と学習指導ではもっと高かった。地域の肯定的な回答が多い項目では昨年度と変わらず「学校の重点目標が明確」「情報の提供」「学校の様子がわかる」で、100%に近い評価であった。

昨年度に引き続き、保護者や地域から肯定的な回答が特に多かった設問が今年度もさらに高くなっている要因として、学校だよりは月1回の発行だが、学校のホームページをほぼ毎日更新し、保護者へ情報発信を行ってきた。宿泊行事等をはじめ行事の情報発信は充実させている。また、学年だよりも各学年期的に発行し、子どもたちの学校生活の様子を丁寧に保護者に伝えている。インターネットが普及し、誰もが気軽にスマートフォンを使って学校のHPを見ることが出来る現代において、学校HPを活用した情報発信は今後も必要不可欠な事項と考えられる。

生徒から肯定的な回答が特に多かった授業に関する設問については、必要に応じて、全教員で一人一人がタブレット等ICTを活用した「主体的・対話的・深い学び」の授業を意識しながら取り組んでいる成果であるか考える。

2. 学校関係者評価アンケートに関する自己評価報告

(1) 学習指導について（保護者・生徒）

「先生は、課題について自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている（肯定的回答：88%）」と高く、それ以外の回答も8割を超えている回答となっている。「提出やテストなどわかりやすく評価している」が75%と80%を下回るが、相対的に肯定的な評価となっている。教員の指導方法の改善結果が評価として表れている。研修を定期的に行ったことで教員も基本的なタブレット端末の使い方を習得したので、さらにさらにこの状況を継続していけるよう、教員一人一人のICTを有効に活用した授業実践の力を高め、誰もがいつでもどこでも、当たり前に見えるように実践していくことを心がけていく。

しかし ICT の活用については、タブレットを使うことが目的ではなく、タブレットを使って何を
するかが大切であり、教員一人ひとりが考えていくことはもちろん、弦巻中学校としてどのように
取り組んでいくか、さらに、校内で研修をさらに継続していく必要がある。

また、上記の4つの項目のうち2項目の保護者の回答は今年度も低く、「分からない」の回答が
2～3割である。保護者への周知について、さらに工夫していく必要がある。

(2) 生活指導について（保護者・生徒）

「先生は、学校のルールを生徒に考えさせて指導している（肯定的回答：75%）」と昨年度に比
べて若干低くなっている。生活指導提要の改定に基づいて、本校でも「生徒に考えさせる生活指導」を
行っているが、教員の異動や若手教員の増加等もあり、あらためて、弦巻中学校の生活指導について
共通理解をする必要がある。また、「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」
が昨年度同様高いことでは、各学期に一回実施しているカジュアルウィークの取組や日頃の生徒会
活動、行事での取り組みの際、教師があれこれ指示を出すのではなく、生徒の自主性に任せた指導が
大切なことがわかる。今後も学校の生活のルールについて生徒一人一人が主体的に考えられる機会を
作っていく。

(3) 学校行事（運動会・学芸会、宿泊行事など）について（保護者・生徒）

生徒からは「学校行事は楽しい（肯定的回答：92%）」、「学校行事は、達成感がある（肯定的回答：
88%）」という回答であった。行事などは、新型コロナウイルス感染症の前に戻ってきたこともあり、
さらに自分たちで行事を主体的に考え取り組んできたことで、肯定的な回答がさらに5ポイント近く
増えた。保護者も「学校行事」については、肯定的な回答が多く、直接学校で活躍する生徒を見る
ことができるようになったからであると思う。

(4) キャリア教育について（保護者・生徒）

「キャリア教育」に関する3つの質問に対する肯定的な回答の割合は、学年が上がるにつれ増加し
ている。これは、3年生の場合は「具体的な進路指導の場面が多くなる」ことが理由の1つと考えら
れる。しかし1年生で行っている「職業調べ」や、2年生で行っている「職場インタビュー」も
「キャリア教育」であり、また、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題
対応能力」、「キャリアプランニング能力」の4つの力が、「キャリア教育」を通して身に付けてもら
いたい力であることから、今後も「キャリアパスポート」を活用しながら、機会があるごとに「キャ
リア教育」の本当の目標を生徒はもちろん保護者にも、説明し理解してもらい必要がある。

また、生徒のキャリアパスポートの活用については進んできたが、その意義や役割については理解
されていないのか、肯定的な回答は6割にとどまっている。キャリア教育の充実のためにも、意義や
役割について、さらに高めていく必要がある。

保護者については、学校だよりでその意義について掲載したり、学期ごとに保護者に返却してい
るにも関わらず、相変わらず「わからない」の保護者の回答が3割弱になっている。引き続き、学校・
保護者と連携を図りながら、生徒のキャリア教育の充実につなげていきたい。

(5) 教職員につて（保護者・生徒）

教職員については、保護者を対象とした「本校は、丁寧に指導している（肯定的回答：75%）」、
「子どもや保護者が相談しやすい（肯定的回答：72%）」に対し、生徒を対象とした「先生たちは、

生徒に丁寧に指導している（肯定的回答：87%）」は高いが、「生徒が相談しやすい（肯定的回答：62%）」と低く、保護者が思っているほど、生徒は思っていないことがわかる。本校は、フレンドリーな教員も多く、普段の様子を見ると、先生も生徒もよく交流している。「先生は相談しにくい」というよりも、生徒自身が教員に相談するよりも友人や家族に相談する傾向が強いと考えられる。一人ひとりの教員が、意識をしてもっと「相談しやすい雰囲気づくり」を心掛けていくことがさらに求められる。

(6) (学校生活) 全般について (保護者・生徒)

「楽しい」「達成感」は毎年肯定的な回答が多い。今年度も「学び舎の小学校との交流」に関する設問については、実際に交流がないので、肯定的な回答の割合が低かった。緑陰子供会や子供大会でのボランティア活動、落ち葉掃き、子ども駅伝での取り組みなど、限られた生徒は、交流があるので、引き続き、可能な交流ができるように、工夫していきたい。

(7) 部活動について (保護者・生徒)

部活動に関してはどの設問も、肯定的な回答の割合が高かった。部活動も今後は地域移行・地域連携が進められるために、生徒・保護者のニーズも考えながら、部活動のあり方についても検討していく必要がある。

(8) 学校からの情報提供について (保護者)

「学び舎の小学校について情報提供されている」に関する肯定的な回答の割合が3割と昨年度と変わらず低いものであったが、これは昨年度に続き、学び舎の小学校との直接の交流がほとんどなかったことが要因であると考えられる。

一方、「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」に関する肯定的な回答の割合は約90%と非常に高いものであり、学校側の取組の成果が表れている。「1. 概要」でも書いたが、インターネットが普及し、誰もが気軽にスマートフォンを使って学校のHPを見ることができる現代において、学校HPの充実は今後も必要不可欠な事項と考えられる。ただ、中学校で小学校の情報に本当に必要かと疑問もある。情報も精査しながら必要な情報を発信していくことが大事だと考える。

(9) 地域との連携について (保護者)

「地域との連携について」の3つの項目については、「わからない」が3割を超えている。しかし、肯定的な回答の割合は高かった。地域との交流活動も徐々に始まっているので、今後は「わからない」が減っていくのではないかと考えられる。

(10) 学校の安全性について (保護者・地域)

保護者へのどの設問についても、75%以上と肯定的な回答の割合は高かった。地域への「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」「学校は、安全性を高めようと地域と協力している。」の項目では、100%との回答だった。弦巻中学校避難所運営訓練などTSAと連携しながら毎年ブラッシュアップさせているのが肯定的な回答につながっていると考えられる。引き続き、保護者のニーズを捉え、具体的にかつ明確な対策を考え、地域と連携した防災対策に力を入れ、安心・安全な学校づくりを推進していく。

(11) 学校運営について（保護者）

どの設問についても、肯定的な回答の割合は高かったが「わからない」も多い。引き続き、様々な機会を通して、学校の教育方針をアピールしていく。

(12) 弦巻中学校独自項目について（保護者・生徒）

どの設問についても、肯定的な回答の割合は高かったが、ボランティア活動に関する設問では、肯定的な回答の割合が低かった。しかし、弦巻中学校の生徒はボランティア活動に積極的に取り組んでいないのかと言えばそうではない。毎年の学年ごと「落ち葉掃きボランティア活動」「プランターづくり」をはじめ、地域へのボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。「ボランティア活動している」という意識ではなく、「当たり前のことをしている」という意識で取り組んでいるためと考えられる。

3. 地域全般のアンケート結果について

肯定的な回答の割合が高かったのは、「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる」、「学校の重点目標が明確である」、「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」の3項目であった。最初の2つの項目は、「毎月、地域に配布している学校だより」、「学校 HP の充実」の成果と考えられる。

依然として「わからない」回答の項目もあるので、学校運営委員会をはじめ、学校協議会の活動が再開してきた中で、今後も引き続き、地域との連携を図り、教育活動の充実につなげていきたいと考える。